

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱第7条第4項の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和元年度第1回高松市子ども・子育て支援会議 保育所・幼稚園等部会
開 催 日 時	令和元年9月2日(月) 15時～16時
開 催 場 所	高松市役所11階114会議室
議 題	1 幼保連携型認定こども園の認可について 2 令和2年度の特設教育・保育施設等の利用定員について
公 開 ・ 非 公 開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
非 公 開 の 理 由	—
出 席 委 員	4人
	加野部会長、上井委員、金倉委員、山田委員
傍 聴 者	5人(定員10人)
担 当 課 及 び 連 絡 先	こども園総務課 (839-2359)

会議の経過及び結果
<p>開 会</p> <p>部会長から、職務代理者として上井委員の指名があった。</p> <p>1 幼保連携型認定こども園の認可について</p> <p>2 令和2年度の特設教育・保育施設等の利用定員について</p> <p>事務局から、議題(1)、(2)についての概要説明を行った。</p> <p>【主な質疑応答】</p> <p>委員) 高松保育園が認定こども園に移行することにより、利用定員が230名から180名に減少している。現在利用している子どもに影響はないのか。</p> <p>事務局) 現時点の高松保育園の利用児童数は、180名を下回っているため、影響はないと考えている。</p> <p>委員) 需給バランスを見ると、西部北、東部北地区で不足が見られる。認定こども園等を増やしていくことは簡単なことではないと思うが、施設整備ではなく、入所案内の際に空いている施設等を案内するなどのソフト面での施策等はあるのか。</p> <p>事務局) 西部北、東部北地区を含む計画上保育の受け皿が不足する地区については、待機児童の状況等も踏まえ、現在準備を進めている推進計画の次期計画策定において検討していきたい。</p>

委員) 西部南地区では保育の受け皿確保が十分ではない状況にも関わらず、いずみこども園が定員を減少している。理由として何が考えられるのか。

事務局) 事業者の詳細な情報については、お伝えすることができないが、利用定員の設定にあたっては、法人からの申し出により、過去3年間の実績等を確認し、市と協議の上決定することとなる。制度上、定員減少を拒むことは難しい。

委員) 東部南地区では、0歳で6名が受け皿不足となっている。既存の施設が、定員を増やすことにより、解消につながると考えられる数値かと思うが、どのように考えているか。

事務局) 現在、推進計画の次期計画策定を進めているが、保護者のニーズ調査等を行い、内容の精査を行っているところである。今後の需給バランスについては、次期計画において検討していきたい。

部会長) 待機児童も徐々に減少傾向にあることから、今後は、量より質の充実にも着目して今後の施策を検討していく必要があると考える。

議題(1)の「幼保連携型認定こども園の認可」について、議題(2)の「令和2年度の特設教育・保育施設等の利用定員」について、部会としては、認可、了承することに問題なしとしたい。

閉 会